

# 「猪八重溪谷」のブラッシュアップによる地域創生

## ～NPO法人と協働による取り組み～

九州森林管理局 宮崎南部森林管理署 森林技術指導官 寺田 雄一郎

NPO法人「ごんはる」 セラピー事業部 主任 谷口 由利子

### 1 課題を取り上げた背景

森林セラピーや森林環境教育など様々な活動の場として利用されている猪八重溪谷は、北郷町森林セラピー基地、レクリエーションの森「猪八重の滝風景林」、学習の森、日本の貴重なコケの森、猪八重照葉樹林生物群落保護林、林分密度試験林など指定されるとともに、森林環境教育、森林浴や森林セラピーの場として活用されています。この活動をNPO法人と協働により、ブラッシュアップし地域の活性化に向け取り組みを行いました。

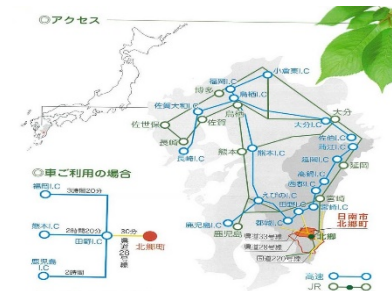


(写真1：五重の滝)

### 2 猪八重溪谷の位置と特徴

猪八重溪谷は、宮崎県日南市北郷町の北東部を流れる猪八重川上流に位置しています。猪八重溪谷という約1,600haの中で様々な取組みがされています。北郷町全体が「森林セラピー基地」に認定され、溪谷の中は、遊歩道も整備され、森林環境教育などの活動の場として利用されています。

猪八重溪谷で森林浴効果の科学的な実験を行ったところ、心理的な緊張や不安を和らげ、疲れをとり、気持ちを落ち着かせる効果、さらに、気分を高める効果が確認されています。また、猪八重溪谷は、「猪八重の滝風景林」として約700haがレクリエーションの森に指定されています。



(写真2：猪八重溪谷の位置)



(写真3：大自然の中の遊歩道)



(写真4：コケ観察会の様子)

すぐれた自然景観を有するなど、観光資源としての潜在的な魅力が認識されるレクリエーションの森であることから、平成29年4月に「日本の美の森お勧め国有林」に指定されています。

レクリエーションの森に隣接する一角を学習の森として、森林環境教育や体験学習の場として活用しています。

猪八重溪谷は、コケの聖地であり、約300種類のコケ植物が生育し、カクレゴケやサガリヤスデゴケなど絶滅危惧種のコケをそのまま観察できる九州を代表するコケの宝庫です。平成30年8月に宮崎県で初めて日本蘚苔類学会から「日本の貴重なコケの森」に認定されました。

猪八重溪谷の上流部約480haは、日本有数の原生的な照葉樹林であり、平成30年9月に猪八重照葉樹林生物群落保護林に指定されました。

猪八重溪谷には、最近テレビやインターネットで話題になった林分密度試験林(通称：木のミステリーサークル)があり、大学や各種

研究機関が調査研究を行う外、数多くの見学者が入林しています。



(写真5：森林浴中の看護学校生)



(写真6：親子参加者によるネイチャーゲーム)



(写真7：林分密度試験林 通称：木のミステリーサークル)



(写真8：猪八重照葉樹林生物群集保護林)



(写真9：シラガゴケ)



(写真10：カビゴケ)



(写真11：絶滅危惧種 カクレゴケ)



(写真12：絶滅危惧種 サガリゴケ)

### 3 森林

#### セラピー協議会の活動

北郷町森林セラピー協議会の組織は、国、宮崎県、日南市や地元の商工会議所など15の団体によって構成されています。活動の地域は日南市北郷町を拠点として、猪八重溪谷などをセラピーロードとして活用しています。

この「森林セラピー協議会」の中でも「NPO法人ごんはる」は、活動の企画立案を受け持つなど中心的な役割を担っています。以下、「ごんはる」の活動の一部を照会します。

「ごんはる」では、次のような活動の際のインストラクターの派遣・プログラムの企画・運営を担っています。

- (1) 森林セラピストの案内で猪八重溪谷を散策し、途中、学習の森では楽な姿勢をとり、目を閉じて頬をかすめる風、葉っぱののすれる音、森の香りなどを感じ、五感をリセットするためのリラクゼーションを行い、リラックスと癒やし効果を高め、森と人が一体になる感覚を楽しみます。
- (2) 最近では海外からのお客さんも多くなっています。香港から4泊5日で宮崎と鹿児島島の森林セラピー基地を歩く、香港旅行会社の森林セラピーツアーで、ごんはるでは、セラピスト、森林ガイドとボランティアの派遣を行っています。
- (3) 自然観察をしながら散策し親子でネイチャーゲームを行い、森の大切さやエコについて学ぶ森林環境教室の取組みも行っています。
- (4) 両手にポールを持って歩くニュースポーツ、ノルディックウォーキングで市民の健康増進を図るために月に2回の自主教室も行っています。
- (5) 餌肥杉の美しく林立する猪八重足場チップ広場では森ヨガを開催しています。

森林セラピー協議会での宮崎南部森林管理署の役割としては、国有林のフィールド提供、遊歩道の整備、植物の盗採防止のパトロール、森林環境教育の教材の提供、協議会のメンバーとの連絡調整を行っています。



(写真13: 森林セラピー協議会)



(写真14: 五感を使った森林浴)



(写真15: 「森林健走」森林セラピーツアー)



(写真16: ノルディックウォーキング)

#### 4 猪八重溪谷の長所と弱点

NPO法人と協働による取組の中で長所としては、

- (1) 五重の滝などの自然が豊かである。
- (2) カクレゴケ、サガリゴケなど貴重な植物の宝庫である。
- (3) 香港からの森林浴ツアーなど外国人の訪問が多い。
- (4) 北郷町森林セラピー基地などの指定がある。
- (5) 風光明媚な渓谷でありながら林業が営まれ、産業の歴史も古く、渓谷として歴史があり、地域住民に親しみ愛されている。



(写真17: コケ博士 服部新佐博士の記念碑)

一方、短所として

- (1) 森林セラピー基地のエリア（約1600ha）は、利用出来るエリアが狭い。
  - (2) バスなどの交通機関が整っておらず道路も狭い。
  - (3) 大雨や台風で遊歩道が崩壊しやすく立ち入り禁止になることが多い。
  - (4) 遊歩道等が狭いため、一度に入れる人数が限られている。
  - (5) 広報活動が不十分のため認知度が低い。
- といったことが認められました。

#### 4 考察

このような長所と弱点を踏まえ今後の方向性として、森林管理署、日南市、NPO法人「ごんはる」などの協議会のメンバーが協力して

- (1) 猪八重渓谷の良さをPRしていく。
- (2) 旅行会社とタイアップしてツアー客を誘致する。
- (3) 大学やコケの研究者、林分密度試験林の研究者とタイアップして、森林・林業、照葉樹林及びコケの研究の場として積極的にフィールドを提供する。
- (4) 豊かな自然、癒やしの空間を保護する。
- (5) 自然観察会や森林セラピーをリードするツアーガイドを多く養成する。
- (6) 近年増加傾向にある外国人訪問客にも理解できる看板等を充実させる必要があります。



(写真18: 森ヨガ)

これらのことを目標として、「学び」と「癒し」をテーマに大学やコケの研究機関だけにとどまらず、森林環境教育や自然に興味のある人たちへの学びの場としてフィールドを提供し、これらを柱に係人口等の増大を目指し、森林サービス産業としての地域創生につなげていきたいと考えています。